

News & Information

ソニー教育財団「ソニー幼児教育支援プログラム」
全国 136 園の幼稚園・保育所・認定こども園より選ばれた最優秀園

研究成果を発表する「最優秀園実践発表会」開催

10月16日(土) 世田谷区立希望丘保育園(東京都)

研究発表とシンポジウムを通じ、保育関係者に向けて主題「科学する心を育てる」保育実践を公開

記念講演: 玉川大学 教授 大豆生田 啓友 氏

後 援: 文部科学省、厚生労働省、内閣府、世田谷区 他

公益財団法人 ソニー教育財団(会長 盛田昌夫)は、2020 年度に「ソニー幼児教育支援プログラム」で「最優秀園」に選ばれた世田谷区立希望丘保育園(東京都、園長:城内明美氏)の取り組みをオンラインでご紹介する「最優秀園実践発表会」を開催いたします。



「ソニー幼児教育支援プログラム」は、乳幼児期の教育に関する研究を推進したソニー創業者 井深 大の考えを受け継ぎ、2002 年から続けている教育助成です。「科学する心を育てる」を主題に、1 歳から 5 歳児の保育実践とその考察に基づく今後の方向性を募集しています。2020 年度は、136 園よりご応募いただきました。

今回、「実践発表会」を行う 希望丘保育園 は、本プログラムの審査委員長である小泉 英明氏(株式会社日立製作所 名誉フェロー)ら 5 氏による審査や、個別調査を経て、「最優秀園」を受賞しました。子どもたちが自然や四季の変化を感じ、多くの生き物に出会い、命と向き合う中で、「科学する心」を育むこと。独自に開発した「のっばらグラム」やデジタル顕微鏡等のツールを工夫して、子どもの感性を大切に、子どもが主体となって創造する保育が特に高く評価されました。

最優秀園実践発表会・シンポジウム 開催概要

世田谷区立希望丘保育園 (東京都)

研究主題: 様々な直接体験を通して探究心を育てる

～発見、不思議、好奇心を仲間と共感できる環境を大切にしながら～

開催日時: 2021年 10月 16日(土) 9:50:~12:40 (Zoomを使用したオンライン発表)

シンポジウム: 玉川大学 准教授 田澤 里喜 氏 他

記念講演: 玉川大学 教授 大豆生田 啓友 氏

参加費: 無料

※開催についての詳細は、ホームページに掲載の「最終案内」をご覧ください。

https://www.sony-ef.or.jp/workshop/pdf/pre_20211016_kibougaoka_2nd.pdf

※世田谷区立希望丘保育園の「最優秀園論文」の全文はホームページでお読みいただけます。

https://www.sony-ef.or.jp/sef/program/result/pdf/2020_pre_kibou.pdf

「ソニー幼児教育支援プログラム」2020年度 最優秀園 論文

開催園: 世田谷区立希望丘保育園(東京都)

論文テーマ: 虫のようにしなやかに野草のようにたくましい心を育てる～のっばらプロジェクト～

論文全文 (https://www.sony-ef.or.jp/program/result/pdf/2020_pre_kibou.pdf)

【審査委員による講評(抜粋)】

0歳児から5歳児まで、さまざまな自然との出会いが、異年齢の子どもを介して広がっている点で、大変有意義な実践です。子どもたちの姿からは、多種の生き物をよく観察し興味を深め、自然の美しさ不思議さに感動し、命と向き合い、生き物の生態や自然の摂理など多くの対話的で深い学びを通じた、「科学する心」の顕著な育ちを読み取ることができます。「なんでも図鑑」「のっばらグラムボード」などの共通のツールにより、プロジェクトに保護者も巻き込み、またそのことが子どもたちの意識と意欲をも高めています。デジタル顕微鏡によって皆で共有できるようにするなど、道具立ての点でもこれからの「科学する心を育てる保育」への示唆も大きい実践となっています。追求の深さがある事例は他にない独創性があり、豊かな自然環境を子どもが主体となって創造することが、豊かな経験につながるという、まさに実体験が「科学する心を育てる」肝であることが伝わる論文として高く評価されました。

ソニー幼児教育支援プログラムとは

「科学する心を育てる」を主題に、子どもの発想や保育者の熱意を活かし、子どもの姿を中心にした独自性のある保育実践と今後の方向性をまとめた論文を募集し、その実現のための支援を行っています。全国の幼稚園・保育所・認定こども園より、毎年100園以上ものご応募をいただいています。審査委員長の小泉英明氏(株式会社日立製作所 名誉フェロー)をはじめとする各界の有識者により、予備審査、中間審査を経て、入選候補園に関しては現地調査も行います。入選園は翌年、「最優秀園実践発表会」や「優秀園実践提案研究会」を開催。主題に迫る取り組みの積極的な発信にご協力いただきます。また、論文の中から特色ある事例を選び、毎年『実践事例集』(冊子)を発行。さまざまな実践事例をホームページから検索することもでき、保育関係者の研修や研究の参考として活用されています。

ソニー幼児教育支援プログラム: <https://www.sony-ef.or.jp/sef/program/preschool.html>

幼児教育 保育実践事例サイト: <https://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>

■ ソニー教育財団について

ソニーの創業者である井深 大は、戦後間もない日本において、科学技術の振興こそが国の発展に繋がると考え、次世代を担う子どもたちへの理科教育に多大な関心を抱いていました。日本初のトランジスタラジオを発売し、会社経営が軌道に乗り始めたのを機に、1959年「ソニー小学校理科教育振興資金」の贈呈を始めました。ソニーの教育助成活動の始まりです。

この事業を継続的に発展させるため、1972年に「財団法人 ソニー教育振興財団」を設立しました。その後、井深大の理念を引き継いだ教育助成活動は対象を中学校にも広げ、子どもたちの感性・創造性・主体性の育成を目指した「ソニー子ども科学教育プログラム」へと発展。60年以上もの間、創造的で先進的な取り組みを行う全国の学校、先生方を支援してきました。

一方で、井深大の関心は幼児教育にも広がり、1969年に「財団法人 幼児開発協会」を設立しました。幼児期の豊かな感性と創造性の育成を目指し、2002年から幼稚園・保育所・認定こども園を対象にした「ソニー幼児教育支援プログラム」を開始しました。2011年に「公益財団法人 ソニー教育財団」となり、幼児期から中学生までの「科学する心」を育むこと、「科学が好きな子ども」を育てることを柱にした教育助成を行っています。

教育助成の他、「自然に学ぶ」をテーマに探究する小・中学生対象の「科学の泉ー子ども夢教室」、親子の絆を育む『「科学する心」を見つけようフォトコンテスト』など、未来を生きる子どもたちへのさまざまな支援活動を行っています。



ソニー創業者 井深大

<報道関係の問い合わせ先>

公益財団法人 ソニー教育財団 東京都品川区北品川 4-2-1

TEL:03-3442-1005 FAX:03-3442-1035

公式ホームページ: <https://www.sony-ef.or.jp/>